

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書（令和4年度）

「がん患者における介護認定の現状に関する研究」

研究分担者 吉田陽一郎 福岡大学病院 医療情報部 診療部長・診療教授

研究要旨

がん患者における介護認定状況を調査することにより、医療と介護の連携を目指すにあたり課題となることを抽出し、今後何をすべきかを明らかにする。現状ではデータ解析中であり、結論には至っていない。

A. 研究目的

がん患者における介護認定状況を調査することにより、医療と介護の連携を目指すにあたり課題となることを抽出し、また、連携するメリットを明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

福岡大学病院にて、癌と診断され介護認定を受けた1045名を対象とし、介護度を治療法・臓器別に評価し、生存期間との相関を検討する。

C. 研究結果

介護度が高いほど治療へ移行する割合が低く、がんのステージが高いほど治療へ移行する割合が低かった。体表のがんであれば介護認定による治療移行への影響は少なかった。手術と比較して化学療法は介護認定を受けた患者の治療移行割合が低かった。介護度が高いほうが生存率が悪かった。

D. 考察

介護認定の有無が治療選択に影響を与えていると考えられ、実際に介護度が高いほうが生存率が悪く、介護認定が治療指標として機能していると考えられる。に、高齢期にあるリンパ浮腫患者の特徴や留意事項を導き出す予定である。日本における高齢者機能評価を施行している施設は少なく、介護認定が高齢者機能評価の代用となる可能性がある。データ解析が集結していないため、最終結果をみて結論付けたい。

E. 結論

高齢者機能評価を施行している施設は少なく、介護認定が高齢者機能評価の代用となる可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
データ取得・解析中のため未発表
2. 学会発表
データ取得・解析中のため未発表

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし